

令和2年度 学力向上指導改善プラン

三田市立狭間中学校長 大杉 正昭

学校教育目標		人間尊重を基盤とし、確かな学力と豊かな心でたくましく生きる生徒の育成	4月		2～3月	
推進主体		管理職・主幹教諭(研究推進担当)・各教科代表で研究推進委員会を設置し、学力向上に向けた取り組みを推進する	学力向上に向けての重点的な目標 (指標となる数値等)		成果となる目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等			年度末評価		評価	
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において、書くことの領域で全国平均正答率を9%以上、上回った。 ○記述式問題において無解答があり、書ける、書けないの差が大きくなっていてと考えられる。作文等に取り組み、苦手な生徒に対する重点的な指導を行う必要がある。その中で、相互評価・振り返りと教師からの助言によって、書き意識を取り除いていく活動を、時数の制限の中でいかに継続して行うかが課題である。 <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において、「関数」と「図形」の領域で正答率は全国平均を5%以上、上回った。「資料の活用」領域は目標とした5%と同程度であったが、若干高かった。また、思考力を問う設問では全国平均を上回るが、正答率が他の設問より低く、学習内容を活用する力に課題がみられた。 ○授業の中で日常生活の具体的な事象を取り上げ、その解決をはかるという場面を設定し、生徒自らが前向きにその課題に向き合い活用力を養う。 ○「資料の活用」領域は問題演習の量を増やして基礎基本を定着させ、数学的な用語を使って事象を考察する力をつける。 	<p>成果となる目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉や漢字に関する興味・関心を高め、語彙を増やすことで言語活動の充実を図る。 ○小説や詩などの文学作品の主題を理解するために、対話的な活動を取り入れる。 ○論理的な文章の構成を理解させ、具体例を示した説論文を書く力を育成する。 ○ICT機器を活用したプレゼンテーション能力を高める。 	<p>具体的な行動目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○古典と現代文を比較し、言葉の移り変わりを学ぶことで言葉に対する興味・関心を高める。 ○知識構成型ジグソー法などを活用し、グループ毎に主題へのアプローチを変え、主体的・対話的な活動につなげる。 ○プレゼンテーション活動やディベート等を行い、言語表現力を高める。 	<p>年度末評価</p> <p>(今年度の成果と来年度に向けた課題等)</p>	
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ・テストへの意識が高く、定期考査前には、家庭学習の時間を確保して勉強に取り組んでいる。 ・今後は、効率的な家庭学習を行うために、学習計画を立てて実行させるとともに、補習を学校全体の取組として充実させることで、低学力の生徒への支援を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習相談の充実させる。 ○5教科で毎日10分間の朝学習に取り組み、基礎基本の徹底を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「授業がわかりやすい」の数値を90%以上にする。 ○定期考査前に学習計画を立てさせ、効率のよい学習方法を身に付けさせる。 ○木曜日の学習相談を充実させ、基礎学力の向上に取り組む。 		
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心した学校生活が保障され、生徒の規範意識は高く、授業も集中して取り組んでいる。 ・生徒は規律や約束を守り、宿題や提出物も守られている。 ・今後は、「見通しと振り返り」や「主体的・対話的で深い学び」等の授業形態をより浸透させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業・楽しい授業の改善に努める。 ○発表や話し合いを大切に授業で、自尊感情を高める。 ○来年度からの新指導要領完全実施を踏まえて、評価の仕方についての研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を充実させ、授業力の向上に向けた研究に取り組む。 ○授業の「見通しと振り返り」や「主体的・対話的で深い学び」等の授業形態を取り入れるなど、授業の改善に努める。 		
	償学・力生活向上に慣れ等るの学習状況	<p>全国学力・学習状況調査の質問紙の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は規律正しい生活を送り、課外活動にも意欲的に取り組んでいる。また、教師との関係も良好で、人の役に立ちたいという意識も持っている。 ・今後は、「自己有用感を感じる機会と場の設定」や「話し合いによる学び合うスキル」の向上に努める必要がある。 <p>学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は楽しく充実した学校生活を送っている。 ・生徒の個性を尊重したり、生徒一人ひとりに活躍の機会や場を提供し切れていない。 ・今後は、一層のわかりやすい授業と基礎学力の定着に努める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感を高める。 ○全教育活動などを通じて、話し合い活動を活かし、学び合う力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価アンケートで「命の大切さや思いやりの心など、豊かな心を育てようとしている」「いじめや暴力のない安心した学校生活」の数値を90%以上にする。 ○主体的、対話的で深い学びにつながる授業を昨年度以上に実施する。 		
	研修内での研究状況	<p>校内研究の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、協働学習を取り入れた授業づくりを行うこととし、校内研究推進体制を整備している。 <p>校内研修の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別に支援が必要な生徒や精神面で不安を抱える生徒に対する支援方法を研修している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的・対話的で深い学び実現に向けた授業改善に努める。 ○発達障害等への理解を深め、生徒理解につなげる。 ○発達障害など特別に支援が必要な生徒向けの学習支援の在り方等の研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○協働学習の手法を取り入れ、学習者同士が対話的に学び合うことで学習内容の定着を図り、相手の意見をよく聴くとともに、自分の意見を伝える技術を高めることができる授業を実現していく。 ○講師を招いて研修するとともにその成果を公開し、相互の授業見学を年2回以上行う。 ○通級指導員より研修受けると共に、そのスキルを授業に反映させる。 		
家庭・携来種間連	<p>家庭・地域等の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に適應できない生徒や対人関係に課題のある生徒の家庭と連絡を密にし、保護者と連携して指導にあたっている。 ・今後は、地域の教育力を活用した取組を進める必要がある。 ・SNS等に係る諸問題を家庭と連携して解決に当たることがある。 <p>小・中における教科連携等の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中が連携して、個々の生徒への実態把握に努め、具体的な対応や生徒指導を行っている。また、児童会と生徒会の交流も「あいさつ運動」等を通して活発化している。 ・今後は、中学校で必要な基礎学力の定着を、小中連携して取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の関係機関との連携を深め、地域と連携したきめ細やかな支援体制を確立する。 ○生徒、保護者への情報モラルに係る講習や啓発を年間指導計画に基づき実施する。 ○不登校生徒や相談室生徒の割合を昨年度より低くする。 ○SNS等に係る生徒指導事象の割合を昨年度より低くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい教科道徳への重点的な取組や学習相談、毎月実施する生活アンケート等により生徒の実態把握を行うとともに、自尊感情の育成を図っていく。 ○授業のみならず、全教育活動を通して「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた取り組みを推進する。 ○学習タイムを実施し、基礎学力の定着につなげる。 ○教育相談アンケートによる詳細な分析から個々の生徒の特性を的確に把握し、生徒理解に努め個性の尊重を図る。 			